

## 「平成 26 年度電波の利用状況調査に係る評価結果」のポイント (北海道管内)

### 1 調査対象周波数帯 (714MHz 以下) の評価ポイント

- 714MHz 以下の周波数帯を 5 つに区分して、評価を実施した。
- アマチュア局を除くと北海道管内で無線局数は増加 (約 0.5%増) しており、船舶や航空機無線、消防・防災行政無線等重要な無線のほか、自営系無線などに緻密に利用されるなど、全体としては適切に利用されている。
- 各種の無線システムについて、周波数の有効利用を図る観点からデジタル化を推進しているが、本周波数帯においても狭帯域化やデジタル化を進めることが望ましい。

### 2 各調査対象周波数帯の評価ポイント

#### ①26.175 MHz 以下の周波数

- ・アマチュア局のほか、中波・短波放送、船舶や航空機、測位システム等の多様で重要な無線局で利用されており、局数は減少傾向にあるが、国際的な周波数割当てと整合がとられているとともに、適切に利用されている。

#### ②26.175 MHz 超～50 MHz 以下の周波数

- ・アマチュア局のほか、主に小型船舶等の重要な無線局 (漁業用無線) で利用されており、適切に利用されている。

#### ③50 MHz 超～222 MHz 以下の周波数

- ・消防・防災行政無線、航空・海上無線、放送等の多様で重要な無線局で利用されており、局数は減少傾向にあるものの、適切に利用されている。
- ・160MHz 帯放送事業用連絡無線については、周波数がひっ迫していることから、狭帯域デジタル化を推進することが望ましい。

#### ④222MHz 超～335.4 MHz 以下の周波数

- ・消防・防災行政無線、航空機等の多様で重要な無線局で利用されており、適切に利用されている。
- ・防災行政無線 (60MHz 帯、150MHz 帯及び 400MHz 帯) 及び消防無線 (150MHz 帯) については、周波数有効利用の観点から、260MHz 帯への周波数移行によるデジタル化が進められており、今後も無線局数の増加が見込まれる。

#### ⑤335.4MHz 超～714 MHz 以下の周波数

- ・防災行政無線、公共分野の自営系無線、放送等の多様で重要な無線局のほか、簡易無線や業務用無線で広く利用されており、適切に利用されている。
- ・350MHz 帯マリンホンについては、地域的な偏在や無線局の減少傾向を踏まえ、他の無線システムの代替等、今後の運用形態について検討していくことが望ましい。
- ・400MHz 帯のタクシー無線、簡易無線については、周波数の有効利用を図るため、デジタル化することが適当である。
- ・列車制御システムの高度化のため、400MHz 帯の割当てを検討していくことが適当である。